

第4学年 学級活動指導案

日 時
授業者

1 題材名 「やさいのひみつ」

2 題材設定の理由

児童は、給食の時間を楽しみにしており、毎日の「給食クイズ」の活動からは、献立に興味・関心を高く示している様子がうかがえる。しかし、偏食の児童も見られ、食の細い子もいる。

食事に関するアンケートの「苦手な食べ物がありますか」では、83%の児童が「ある」と答え、苦手な食品では、ピーマン11名、トマト6名、魚類6名、ねぎ5名、ほうれん草4名と、野菜、魚類をあげ、残滓でも同様の傾向が見られる。

先週の給食では、鶏肉のごまだれあえ、ジャージャーメン、ポークソースマリネは、ほとんど残菜が見られないが、ほうれん草のソテー、筑前煮、野菜の胡麻汁の料理にはそれぞれ8%前後の残菜があった。

そこで、児童が残してしまいがちな野菜には大切な働きがあることを理解させ、苦手なものも食べていこうとする心情を高めたいと願い、本題材を設定した。

本題材は、特別活動の学級活動に位置づけられている「学校給食と望ましい食生活の形成」をねらいとしている。まず、野菜の働きや、色の濃い野菜、薄い野菜の見分け方をクイズ形式で進め、それぞれの野菜に興味を持たせる。次に、野菜の必要量を予想させた後、班ごとに実物の野菜を使った取り分ける活動から、一日にとらなければならない量を知らせ、残さず食べていく心情を高めていきたい。

指導にあたっては、今まで野菜をどのようにしていたか振り返らせ、野菜の働きや必要量などひみつを知る中で、苦手なものも食べていく実践につなげたい。

3 本時のねらい

○ 野菜には健康な体作りに欠かせない大切な働きがあることに気づかせ、苦手なものも食べていこうとする心情を高める。

4 学習過程

学 習 活 動	時間	○支援	*評価
1. 給食の残滓の様子を見て話し合う。 (1) 野菜料理が残っていることに気づく。 (2) 自分の給食の食べ方を振り返る。 やさいのひみつを考えよう	5	○ 給食の残滓をみせることにより、野菜料理を苦手にしている人が多いことに気づかせる。 ○ 自分の食べ方を振り返らせることにより、自分の問題としてとらえることができるようにする。 * 本時のめあてをつかむことができたか。(観察)	
2. やさいのひみつを考える。 (1) 野菜の体内での働きを知る。 (2) 働きに出た‘色の濃い野菜’の見分け方を知る。 (3) 一日に必要な野菜の量を知り、実際に野菜を取り分けることにより、その量を体感する。ゆでて食べることにより、カサが減ることを知る。	25	○ はたらき君の図を用いることにより、野菜の働きに気づかせていく。 ○ 多くの野菜を見せることにより、‘色の濃い野菜’の特徴に気づかせていく。 ○ 実際に野菜を使い量らせてみることにより、必要な量を体感させていく。また、同量の生の野菜とゆでた野菜を比較させることにより、野菜はゆでるとカサが減ることを知らせる。	

<p>3. これからの自分の食事を考える。</p> <p>(1) 自分の苦手なやさいのひみつを確認する。</p> <p>(2) これからの食事ではどうするかを考え発表する。</p>	<p>15</p>	<p>○ 役割演技をさせることにより、理解を深めさせる。</p> <p>○ これからの食事の時に気をつけることをシートに記入させることにより、実践への意欲を高める。</p> <p>* 苦手なものも食べていこうとする心情が高まったか。(シート・発表)</p>
--	-----------	--